



それいゆ 広報

Vol.123

医療法人同仁会

- 介護老人保健施設 それいゆ
TEL0577-35-3030
- 桐生クリニック
TEL0577-35-3880 FAX (共通) 0577-35-3063
- 折茂医院
TEL0577-34-5025
- それいゆ訪問看護ステーション
TEL0577-37-5260
- ヘルパーステーション それいゆ
TEL0577-37-3360
- 病児保育室ブティ それいゆ
TEL0577-35-2525
- ケアプランセンター それいゆ
TEL0577-35-3770
- ショートステイ それいゆ
TEL0577-35-0710
- シャロン・ド・それいゆ
TEL0577-34-5026
- デイサービスセンター ベれる
TEL0577-36-7077
- Dr.Orishige ビオメゾン
TEL0577-37-0800
- デイサービスセンター れざみ
TEL0577-37-5666
- りあん・ド・それいゆ
TEL0577-32-8166

新年あけましておめでとうございます。今年一年皆様に良いことがありますよう心からお祈り申し上げます。

現在日本は少子高齢化社会に突入して世界のトップを走っています。この先どのような展開になるのか予測出来ません。労働人口の不足は切実な現実問題であり、年金の財源枯渇は近未来に差し迫っています。増え続ける高齢の要介護者に対しては、それなりの受け入れ態勢が整いつつあります。しかし、人生百年時代を考慮した場合さらに根本的な発想の展開が必要です。人類は過去幾多の困難を克服して現在に至っていますが、高齢者の圧倒的な増加は人類初めての経験であろうと思います。

現在の高齢者は、新人類として孤独な三十年ないし四十年の未知の人生を歩かなければなりません。年齢が進むにつれて認知症を含めた要介護者は増加しています。百歳以上で一〇〇パーセント自立している人は数パーセント弱ではないでしょうか。これが新人類としての高齢者の現状です。高齢者に対しては駿馬も老いては駄馬、年のせいだから仕方がない、年寄りの冷や水、老いては子に従え、といった昔ながらの固定観念があります。これでは総人口の四〇



新年の御挨拶

医療法人同仁会
理事長

折茂謙一

パーセント近くを占める高齢者は単なるお荷物でしかありません。自然に老化して死を迎える動物と何ら変わりありません。

人生百年時代を迎える我々は、新人類としての高齢者の新しい生き方を模索する千載一遇のチャンスを目の前にしています。百歳まで自立している人がいるということは、人類は百歳まで現役として働くことが出来るという証明であると思います。特殊な人にしかない潜在能力ではなくすべての人類に内在して可能性があると思います。其の内在する能力開発のための研究、教育機関を国策として立ち上げる時期であると思います。内在する能力開発の手法が解明されれば、高齢者の人間としての尊厳ある人生が開けることはもちろん労働人口の不足、年金財源の枯渇も一挙に解決できます。

追伸、私は現在八十歳です。一日二十四時間年間三三〇日働いています。過去には煙草を一日百本二十五年間吸いました。三十九歳で輸血後C型肝炎を十五年間患い肉体的にはかなりのダメージを受けています。仕事はハードです。困難なことが沢山ありますので楽しみながら百歳まで現役を目指しています。

介護教室

「認知症予防くパワリハ・脳リハを体験しよう」

二階介護主任：認知症ケア専門士 高ノ山 優子

昨年十一月十一日(日)介護の日に、老健それいゆ一階ホールにて、「認知症予防くパワリハ・脳リハを体験しよう」と題して、地域の皆様、ご利用者様、ご家族様にご案内し、第一回目の介護教室を開催しました。

当日は、ご近所の方々やご面会後に寄って下さるご家族もみえ、認知症の病気と軽度認知障害(MCI)についてとその予防方法、パワリハビリ(以下パワリハという)と学習療法の効果などの説明の後、実際に体験して頂きました。六機種のマシンを使ったパワリハと脳トレとなる学習療法を全参加者が体験できてとても好評でした。

認知症はある日突然発症するのではなく、十～二十年前より徐々に進行していきます。健常と認知症の境目にいる時期を軽度認知障害(MCI)といいますが、認知症とその予備軍とされるMCIの人口は八六二万人で、六十五



歳以上の四人に一人とあります。MCIを放置すると五年間で約五〇%の人が認知症を発症するといわれています。



今後、スタッフが日々の介護支援や研修などから得た知識を情報提供し、ご家族様、地域の皆様との交流を深め、地域の中の施設として信頼を築くことを目的とし継続していければと考えています。

次回は二月二十四日に、「口腔ケアで肺炎予防」と題して開催します。また、介護相談コーナーも開設しますので、お気軽にご参加頂けるよう心よりお待ちしております。

第二回介護教室

『口腔ケアで肺炎予防』

■日時 二月二十四日(日)

十四時～十五時三十分

■会場：介護老人保健施設それいゆ一階ホール

■介護相談コーナー開設

★口腔ケア用品プレゼント★

学習療法実践研究シンポジウムin福島

平成三十年十月二十九～三十一日

通所リハビリ 学習療法マスター 長瀬 憲

昨年十月に福島県郡山市で開催された『第四回学習療法実践研究シンポジウム』に参加させていただきました。

一日目のマスターのつどいでは、全国から百八五名が参加しました。「人を育てる」をテーマにグループ討議し、多くの意見交換ができ大変盛り上がりしました。

二日目のシンポジウムでは、東北大学の川島教授が講演され脳科学の理論に基づく『学習療法の成果と社会への貢献』について、これからの人材育成や地域にどう生かしていくか等、大変興味深いものでした。ポスター発表では、東海エリア担当のくもんの方々との熱い応援やサポートもあり、盛況のうちに終えることが出来ました。分科会においては、計六施設の発表を視聴し、表題に対しての経過・取り組み・効果まとめを含め内容の完成度がすばらしく、色の使い方や大きさ等とても参考になりました。

三日目の施設見学では、介護老人福祉施設スプリングガーデンあさか様を訪問し「出来ない」を言わないポジティブシンキングに努め、「いいこと探し」をスタッフ全員で心掛けてみえる点がとても印象的でした。

今回の研修で多くの方々との出会い、交流し、学習療法の取り組みや情報を共有することができ、大変有意義な研修となりました。今後は更に利用者様の《学びに対する意欲》に繋がられるよう努力して参ります。

なお、それいゆ一階エレベーター前に発表内容を提示してありますので是非ご覧下さい。



通所リハビリテーション

介護主任 白川 浩代

新年あけましておめでとつございます。本年もよろしく願っています。

デイケアの新年の目標は、『心・技・体』です。みなさんも一度は聞いたことがあることだと思います。心（こころ）技（ぎじゅつ）体（からだ）このすべてのバランスが整った時に最大限の力が発揮できるといふ教訓です。

デイケアはリハビリ施設ですのでとかく『体』にのみ目が行がちです。もちろん大切なことですので理学療法士との連携を密にしています。しかし私たち介護職・看護職は『心』をも整えていただける場所でありたいのです。そのための『技』を高める努力をしています。「いつもより笑顔が少ないな。」「今日は言葉数が少ないな。」「そんな小さなことにも気がきそつと寄り添える存在に。」「それいゆに來ると元氣が出るな。」「てきない事、忘れとったわ。」「と言っていただけそんな場所でありたいと思っています。」「利用日やで行くか。」「お風呂に入る目的で行くわ。」「ではなく、それいゆに行きたいから行く!!」という場所になりすべての利用者様にとって居心地の良い場所を目指して頑張ります。

そして、『心』と『体』を大切にしなければいけないのは私たちスタッフも同じです。しっかりと整え、全力で介護させていただけコンディションを保っていききたいと思います。



シェルブルクリスマス



りんご風呂



手作りおやつ

七時記



中山中体験学習



花餅づくり



餅つき大会



文化祭



シャロン・ド・それいゆ

管理者 牧田 功



新春のお喜びを申し上げます。いつもシャロン・ド・それいゆを御利用頂き有難うございます。本年の目標として『心はひとつ、笑顔はいっぱい』という気持ちで皆様に満足していただけるよう努めていきたいと思っております。

昨年の自己評価では、職員間で利用者様の情報の共有が十分にできていない事が提起されました。個々の利用者のプランに沿い、すべての職員が協力して適切なサービスの提供ができるように努めて参ります。

また、地域の皆様には相談しやすい施設として、シャロンの存在を覚えていただけるように運営推進会議を利用しながら理解を広げていきたいと思っております。見学も随時受け付けております。本年もよろしくお願いたします。

りあん・ど・それいゆ

管理者 阿礼 由美香

新年明けましておめでとうございます。今年の目標は「周りをよく観て、声を掛け合い、気持ちよく過ごそう」です。通い定員一五名・泊り定員九名のため毎日大家族のように過ごしています。利用者様お一人一人と関わることでできる時間は、病院や大きな施設と比べると格段に多くとることができる。若いときの思い出話や、今困っておられることなど気兼ねなくお話いただける関係性を構築させていただいております。

りあん会議で、いち職員が知れた情報をその職員だけのものとして、全職員に共有できていないことがありました。三六五二四時間対応のため変則勤務でしばらく顔を合わす事のできない職員もいます。申し送りノートでの情報提供はしているものの、やはり活字だけでは伝わらないこともあります。その日のリーダーが口頭での申し送りを行ってはいませんが、うまく伝わらないこともありますので、知りえた情報を全職員に伝えるよう努めます。

また、情報を手に入れた職員が他の職員に伝え、「その情報何度も聴いたよ!」と言うくらい沢山コミュニケーションを図り、活気あふれるりあんになることで、利用者様と職員が気持ちよく過ごせる場所になればという思いで目標設定しました。

今年も「りあん・ど・それいゆ」をよろしくお願いたします。



ケアプランセンターそれいゆ

管理者 寺田 歩美

謹んで新年のお慶びを申し上げます。ケアプランセンターそれいゆは昨年十月十三日に事業所移転し、同一敷地内のメゾンドүй五〇五号室へ引越して初めてのお正月を迎えました。今までと違い、オートロックの為気軽に立ち寄る事が出来なくなり、他事業所関係者の皆様にもお手数をお掛けしている事と申し訳なく感じておりますが、居宅ケアマネのみの事業所となった為日々のお悩みや不安・心配事などをゆっくりと気兼ねなくお話しして頂ける場所にしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

新年の抱負は「チームの支援力を高める」。現在五名のケアマネがおり看護師、社会福祉士、介護福祉士、管理栄養士、歯科衛生士とそれぞれが別々の基礎資格を持っています。専門分野が違えば物の捉え方や見方が違ってくる為、他にはないチーム力を生かし、より良い提案が出来るようにしたい。その為にホワイトボードミーティングという会議手法を学び、一人で抱え込むことなく、チームワークを発揮して仕事出来るようにしていきたいと考えています。ホワイトボード



ミーティングとは『元気になる会議』として、誰もが安心して発言し、成果の上がる会議手法として高山市包括主催の研修で紹介されました。事業所内の会議のみならず、現在高山市全体のケアマネの質の向上の為、他法人との共同事例検討会を実施し始めた所です。

今後定期的に開催し、事業所内のチーム支援力のみならず、高山市全体の介護の質の向上の為に自己研鑽していきたいと思っております。

それいゆ訪問看護ステーション

理学療法士 住田 真一

あけましておめでとうございます。

昨年はそれいゆ訪問看護ステーションをご利用いただき、誠にありがとうございました。今年は、干支にちなんで、いろんなものを食べるイノシシのように、多くのことを吸収し実りのある一年にしていきたいと思えます。昨年は皆反省しておりますが、いろんな事が中途半端で終わってしまい、実際残り残った事項が、少なかつたように感じます。

今年は、吸収した多くの知識・事例を、確実に実らせ、次に繋げていけるよう、職員一丸となり、精進して参ります。

今年が皆さまにとりまして良い年になりますことをお祈りしつつ、新年のご挨拶とさせていただきます。



ヘルパーセンターそれいゆ

管理者 大洞 里奈

謹んで初春のお慶びを申し上げます。昨年中は、利用者様、ご家族様、事業所様をはじめ皆様からのご愛顧をいただきまして、スタッフ一同心より御礼申し上げます。

ヘルパーステーション それいゆ、新年の目標は「笑顔で明日を迎えよう」です。人生誰もが山あり谷ありです。つまずき立ち上がれない事があっても、支えてくれる人がいて「よし、もう少し頑張るか。」と立ち上がることが出来ます。私たちも、



時には利用者様に励まされ元気づけられ助けられています。利用者様、ご家族様にとって、どんな時も頼れるヘルパーでありたいと思っております。

本年もより一層のサービス向上を目指し、最大限の努力をする所存ですので、何卒昨年同様のご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。

本年もどうぞ宜しくお願いいたします。





複数事業所間の連携というメリットを活かし、同じ目標をもって進むことで信頼される施設を目指します。
今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



あけましておめでとうございます。旧年中は当施設の運営にご支援ご協力賜り、厚く御礼申し上げます。
当法人の地域に貢献するという経営理念の元、ピオメゾンでは、「ご入居者様、ご家族、そして地域の皆様から安全で安心できる施設作り」を目標に、職員一丸となって努力してまいります。

限られた人員体制で、介護の質を落とすことなく多くの入居者様のニーズにお応えしていく難しさはありますが、職員ひとりひとりが持つ力を十分に発揮し、



施設長 折茂佑子

Dr. O'shiigeピオメゾン

また職員が利用者様の為に何が出来たかを考え、利用者様やご家族様との会話や介助の中での気づきを大切にしました。デイサービスで過ごす一日は利用者様の生活のほんの一部にしか過ぎませんが、大切な一日となるよう努力したいと思っています。これからも利用者様、ご家族様と共に喜び、共に笑う日々でありたいと思います。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



ました。これまで以上に作品作りにも積極的に取り組み、一人一人の利用者様の出来る事を見つけ制作に参加して頂きました。制作中の楽しみや出来上がった時の達成感を感じて頂いた事で次々に作品が出来ていきました。

また職員が利用者様の為に何が出来たかを考え、利用者様やご家族様との会



新年あけましておめでとうございます。
昨年中はデイサービスセンターれざみをご利用頂きましてありがとうございました。

昨年四月



管理者 八賀 薫

デイサービスセンターれざみ

ショートステイそれいゆ

主任 梶田 美里

新年明けましておめでとう
ございます。本年もよろしく
お願い申し上げます。

昨年は、利用者様・ご家族
様には大変お世話になり、ス
タッフ一同感謝しております
。ありがとうございます。
今年はスタッフ一人一人視野
を広げて気付きの介護を目標
に頑張りたいと思います。

一般的に、利用者様は弱い
立場であり自己主張せず我慢
することが多いと言われています。私たちの視野が狭いことで、気づ
くことができないことがあります。介護のプロとしての責任を持ち続
け、利用者様の小さな変化に気がつき、我慢を強いるような環境にし
ないようにしていきたいです。

『利用者様の気持ちになって考える、心を読み取る、共感する』、私
の大切にしている言葉です。まだまだ至りませんが、それに近づける
よう心がけています。



日々仕事をする中で利用者様か
ら学ぶことはたくさんあり、毎
日が自分の将来のための勉強で
す。他スタッフの姿を見て学び、
お互いを尊重しあい、明るく温
かな雰囲気、利用者様に満足
していただけるサービスを提供
できるよう、利用者様からいた
だける最強で最高な言葉「あり
がとう」を毎日の励みに、努力
していきたいです。まだ寒い季
節が続きます。皆様お体をご自
愛ください。



デイサービスセンターべれる

介護主任 清水 博充

開設当初、「母が認知症と分からないように」と、話されるご家族様もお見えになられ
ましたが、認知症を理解し受け入れる事で十年以上も在宅生活が継続出来てみえる方も
みえます。もし、あなたのご家族が認知症になったらどうしますか？認知症の方にも
「その人らしさ」（尊厳・人柄・価値観・人生歴など）があり、その人にとってなじみの
場所があるものです。

私達は、利用者様は勿論の事、認知症を理解し在宅生活を継続する為に、毎日奮闘し
頑張ってみえるご家族様のオアシスになれるよう、一人一人を尊重し、その方にとって
なじみの場所になることを目標にさせて頂いています。

べれるをご利用して頂いているご本人様・ご家族様、今後出逢う方々にとって、生き
ている事が楽しいと思える日々を送って頂けるように、住み慣れた家・地域で暮らし続
ける為の支援を行っております。

その支援の一つとして、毎月第三水曜日に「ほっとカフェ オレンジ」を開催してお
ります。一人での介護は行詰まる事もあるかもしれませんが、同じ境遇の方々とお話し
をすることで新しい介護方法・認知症に対する対応等がみえてくることもあります。是非、
介護の息抜きにお気軽にご参加頂き、情報交換の場としてご利用頂けたら幸いです。

ほっとカフェ オレンジ

みんなでいっぱいしゃべりして、
ほっと一息しませんか

日時：毎月 第3水曜日
午後1時30分～2時30分
場所：レザミひだ 1F
レストラン グランビオ
参加費：100円（飲み物・お菓子代）

* 地域の皆さま・介護でお困りの方
介護に携わっている方や、そうでない方・・・
どなたでも、お気軽にお越し下さい！

悩みごとの相談・情報交換などできる集いの場所です
おうちで出来る認知症予防の体操や、頭のトレーニングも行っています

毎月 第3水曜日に
開催しています

* お問合せ *
認知症対応型通所介護
レザミひだ内 デイサービスセンターべれる
担当：長瀬
連絡先：090-5453-1215



病児保育室プティそれいゆ

管理者 白田陽子

病児保育室のスタッフに必要なことのひとつが『豊かな感性』だと思っています。

病児保育は毎日が「初めまして」「お久しぶり」の保育です。お子さんの普段の様子を知るすべがない状況での保育には、この感性による『気づき』がとても大切になってきます。なんとなく目に力がない、なんとなく表情が暗い、そんなちょっとした気づきが、病状の変化を知る手掛かりとなることが多くあります。

疾患の事に限らず、子どもや親さんとお話する場面でも、なにげない言葉や表情、しぐさに現れるメッセージや心の動きに気づいたり、その背景を想



像できること、つまり感じようとする
ことこそ、相手に寄り添うということ
なのだと思うのです。

それぞれのスタッフが、子育て経験
に限らず、重ねてきた経験や知識の積
み重ねがあり、それが個性となって
日々の保育につながっています。

プティそれいゆは今年で開設十年と
なり、施設の拡張、受け入れ人数の増
員と、また新たな一ページを刻むこと
となりました。

私達はここで一步、基本に立ちかえ
り、初心に帰って感性を研ぎ澄まし、
日々感動の心を持ちながら子育て世代
の親子に向き合いたいと思っています。
今年もどうぞよろしく願っています。

病児保育室プティそれいゆが広くな
りました！

見学や登録、ご利用についてのご相
談やご質問は随時お受けします。

お問合せ

病児保育室

(〇五七七) 三五一二五二五

永年勤続表彰



勤続二十年並びに十年を迎えた職
員の特別表彰が、一月四日老健それ
いゆにて行われ、理事長より感謝状
と記念品目録が贈呈されました。心
よりお祝い申し上げます。

勤続二十年

介護老人保健施設それいゆ
准看護師

南下 ひなよ

勤続十年

介護老人保健施設それいゆ
准看護師

山下 多美代

介護福祉士

平畑 綾乃

編集 後記

病児保育室の
拡張工事が完了
し、ゆったりと
心地良い入居可
能となりました。
子育てしながら
働く保護者とお
子さんの支援を
目的とし、〇歳か
ら小学三年生ま
でのお子さんが
のびのびと生活
できる環境にお
迎えします。

病気の時の保育や子育ての悩み相談等
にも対応させていただいています。施
設設備のみならずスタッフも日々研
究し充実した環境でお迎えします。
私事で恐縮ですが、他地方で働きな
がら幼子と生活した当時は伴侶も単身
赴任でまさしく孤軍奮闘でした。子供
が発熱の時も預かって下さった施設保
育園の先生、私も何度か体調を崩し夜
中、隣の方が幼い娘と救急車に同伴し
てくれた事、懇意にしていた七十代
の方が泊り込みで私達親子の世話をし
て下さった事、助けて頂いた事が思い
出されます。

